

# 菅茶山 顕彰会 会報

第 22 号  
発 行

菅茶山顕彰会  
2012年3月1日



農 功 詩 碑

## 漆山と碓山

会 長 高 橋 孝 一

昔、神辺平野は「あなのうみ」と呼ばれていた。日本に文字が入ってから、「うみ」に「海」という字が充てられたが、「あなのうみ」が「海」であったという証拠が見つからないから、「うみ」は「湖」のことで、昔の人は海や湖や川を船で行き来していたことだろう。

神辺町川南王子の田園に「猫児山（ねこやま）」と呼ぶ小山がある。猫・錨、同音であることから「碓山（いかりやま）」とか、所在地名から「王子山」（おうじやま）ともいう。

同じように「片山」を「漆山（うるしやま）」ともいう。私が子どものころまであって、今は完全になくなってしまった地方病の片山病は、病原が分からなかったころ、片山沖に漆舟が沈んだのが原因だとささやかれていた。それが「漆山」の起源であろう。このあたりの情景を詠んだ茶山の詩がある。

### 農 功

農功五月急如弦 つる 農功五月 弦よりも急なり

一夜園林濯枝雨 むしくわす 一夜園林 濯枝の雨

猫児山下水涵天 ひょうじさん 猫児山下 水天を涵す

（大意）五月の農事強く張った弦のように張り詰めた忙しさだ。大麦を刈り取ったと思ったら、もう田植えが始まった。

ある晩、庭の大樹を梅雨の大雨が洗うと、猫児山のふもとの田野は一面に水を張り大空を映している。

この詩は茶山が廉塾の裏を流れる高屋川堤を散策中、松浦正明氏邸（川南王子）附近から猫児山（現皇子山神社鎮座）を臨み詠んだものと思われる。

松浦正明氏の思い入れも深く、2002年4月、私費で自宅『木籠庵』の庭にこの詩碑（写真上）を建てられた。珍しい屏風型の碑で、左に原文、右に読み下し文が添えられている。

神辺平野も穴の海も別名がなくなった今、漆山と碓山の呼び名も消えてしまった。